

4 総合的な学習の時間の充実 (小・中)



－各学校において定める目標及び内容や探究的な学習の指導のポイント－

総合的な学習の時間は、学校が地域や学校、児童生徒の実態に応じて、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習とすると同時に、探究的な学習や協働的な学習とすることが重要である。

そのため、各学校において目標及び内容を設定し、「探究的な見方・考え方」を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する必要がある。

ここがポイント(取組の重点)

- 学校の特色に応じた取組が増えた→●各学校における目標等や学習過程の充実に課題
- ◇各学校において定める目標及び内容の見直しや探究プロセスを意識した指導を行う。

(1) 各学校において定める目標及び内容の見直し

- ① 各学校が総合的な学習の時間の目標を設定するに当たっては、教科等横断的なカリキュラム・マネジメントの軸となるよう、第1の目標の趣旨と各学校における教育目標を踏まえて設定し、育成することを目指す資質・能力の三つの柱ごとに設定すること。
- ② 「目標を実現するにふさわしい探究課題」「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」を設定すること。(※探究課題…従来の学習対象として説明されてきたものに相当する)
- ③ 他教科で育成する資質・能力を相互に関連付け、日常生活や社会との関わりを重視すること。
- ④ 教科等を超えた全ての学習の基盤となる言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力などの資質・能力の育成に配慮すること。
- ⑤ 体験活動、地域の教材や学習環境を積極的に取り入れること等は引き続き重視すること。

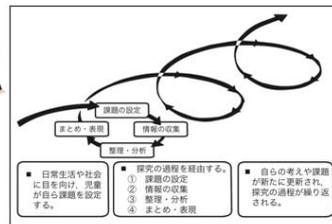


(2) 探究プロセスを意識した指導のポイント

探究的な学習とするためには、「①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現」の学習過程が繰り返させる中で、児童生徒の資質・能力が育ち、学習が更に深まっていくようにすることが重要である。

【学習過程を探究的にすること】

- ① 課題の設定…体験などを通して、課題を設定し課題意識を持つ。
- ② 情報の収集…必要な情報を取り出したり収集したりする。
- ③ 整理・分析…収集した情報を、整理したり分析したりして思考する。
- ④ まとめ・表現…気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現すること。



【他者と協働して主体的に取り組む学習活動にすること】

- ① 多様な情報の収集…情報の多様さと多さは整理や分析を質的に高める要件。
- ② 異なる視点からの検討…異なる視点や異なる考え方があることの方が深まる。
- ③ 地域の人と交流、友達と一緒に学習…共に学ぶことが個人の学習や集団の学習の質も高める。

1人1台端末を効果的に活用することで、より探究的な学習過程の充実につながる。

(3) 指導と評価の一体化

- ① 探究課題ごとに単元の目標及び単元の評価規準を設定して、評価方法や評価時期を工夫した単元指導計画を作成し、指導と評価の一体化(指導→評価→指導)による授業改善に取り組む。
- ② 目標に準拠した評価及び個人内評価を充実させるため、評価資料や評価場面を適切に設定し、客観的な評価に努めるとともに、児童生徒の進歩の状況を認め・励ます等の自己評価・個人内評価を適切に取り入れる。



■関連資料■

- ◎『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(中学校編)』
- ◎『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(小学校編)』
- ◎『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(総合)』
- ◎『小(中)学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』

- 文部科学省 令和4年
- 文部科学省 令和3年
- 文部科学省 令和2年
- 文部科学省 平成29年

4 総合的な探究の時間の充実 (高等学校)

ー 自己のキャリア形成の方向性と関連した横断的・総合的な探究活動の推進ー



「総合的な探究の時間」は「探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指す。」ことを目標としている。

このため、各学校においては、生徒や学校、地域の実態等に応じて、総合的な探究の時間の目標とその目標を実現するにふさわしい探究課題を設定し、生徒が自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、自ら問いを見いだし探究することのできる力を育成するため、創意工夫を生かした教育活動を行う必要がある。

ここがポイント(取組の重点)

- 「整理・分析」、「まとめ・表現」に対する取組が課題
- ◇目標を実現するにふさわしい探究課題を設定することに重点

(1) 指導体制を確立し、全体計画の工夫・改善・充実を図る

- ① 全職員で趣旨や内容等について共通理解を図り、**教科・科目等横断的なカリキュラム・マネジメントの軸**となるよう、各学校における**目標、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力、内容**を設定し、全体計画や年間指導計画を作成する。
- ② 校内研修等を通してすぐれた実践事例や先進校の取組に学び、自校の実践に活かす。
- ③ 指導計画、指導方法、指導体制、学習形態等について学校全体で評価し、常に工夫・改善・充実を図る。
- ④ 生徒が取り組む**探究が高度化し、自律的に行われる**よう、工夫・改善・充実に努める。

(2) 学習内容・学習指導の工夫・改善・充実を図る

- ① 現代の諸問題に対する横断的・総合的な課題、地域や学校の特色に応じた課題、生徒の興味・関心に基づく課題、職業や自己の進路に関する課題等の**目標を実現するにふさわしい「探究課題」**を設定する。
- ② 各教科及び特別活動で身に付けた資質・能力を相互に関連付け、**実社会・実生活の中で総合的に活用**できるようにする。
- ③ 他者と協働して課題を解決する学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりする学習活動、コンピュータなどを適切かつ効果的に活用して、情報を収集・整理・発信する学習活動が行われるようにする。
- ④ 自然体験や就業体験活動、ボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験・実習、調査・研究、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れる。
- ⑤ 読書センター、学習センター、情報センターとしての**学校図書館を積極的に活用**し、地域の社会教育施設等と連携して、課題解決的な学習を展開する。
- ⑥ **教科・科目等横断的な学習や探究のプロセスの充実**を図るとともに、STEAM教育に取り組む。

(3) 保護者や地域社会との連携・充実を図る

- ① 保護者や地域の人材、大学等と連携を図り、**地域の素材や学習環境を積極的に活用**する。
- ② コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の活用や小・中学校の地域学校協働本部との連携を図る。
- ③ 人材や施設に関するリストを作成し、地域の教育資源を活用した指導の工夫・改善・充実を図る。

■関連資料■

- ◎『今、求められる力を高める総合的な探究の時間の展開(高等学校編)』 文部科学省 令和5年
- ◎『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』 国立教育政策研究所 令和3年
- ◎『高等学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領解説編』 文部科学省 平成30年